

令和元年度 事業報告

シルバー人材センターは、就業を希望する高齢者に対し、身近な場所で、臨時的・短期的又は軽易な作業を提供することで、高齢者の社会参加を促進し、活力ある地域社会を実現する一端を担っています。

このようなセンターの活動は、高齢社会を支えるうえでも重要なことから、大和市では、センターへの支援を市の「総合計画」に位置付けており、高齢者の生きがいをづくりに向けた取り組みを進めています。

令和元年度は、第3次基本計画のスタートの年度であり、新たな施策の方向に基づき、会員の増強、就業の拡大、組織及び事務局体制の充実に取り組みました。

この結果、会員数は対前年度比1.1%増の1,004人、契約額は、新型コロナウイルス感染症の拡大の影響がある中、0.1%増の370,430,350円となりました。

しかしながら、令和5年度の目標達成には、必ずしも十分な内容とは言えない状況であり、これまで以上に会員一人ひとりの仕事に対する真摯な取り組みにより、お客様の信頼を広げていくことが必要だと考えます。

今後も、センターに求められる社会的な役割を十分に認識し、社会情勢の変化に適切に対応するとともに、市内各団体との連携を深め、会員の皆様と一体となって、センターの発展に努めてまいります。

次に、主な事業についてご報告します。

(1) 会員の増強

① 会員・役員による入会促進

- ・入会説明会を月2回開催し、入会を希望する市民が参加しやすい環境を整備し、新規会員の入会促進に努めました。
- ・「会員紹介カード」の導入を開始し、会員の紹介による新規会員の入会促進を図りました。
- ・会員の就業等の相談に随時対応するとともに就業相談を月1回実施しました。

② 女性会員の入会促進

- ・女性会員の入会の動機づけになるよう、炊事洗濯等、女性がこれまで家庭で行ってきた作業の多い家事支援サービスをPRし、女性会員の入会促進に努めました。

③ PR活動の実施

- ・リーフレットを自治会加入世帯へ配布するとともに、広報「やまと」に広告を掲載する等、効果的なPRを実施しました。
- ・愛称「はつらつYamato」をリーフレットやホームページ等で周知し、親しみあるシルバーとなるようPRに努めました。
- ・「大和市民まつり」「ベテルギウスまつり」等の各種イベントに参加し、シルバー事業を広く周知するとともに、訪れた高齢者に対して入会案内を行いました。

④ 魅力的なセンターづくり

- ・センターの魅力をより高めるため、多様な就業機会の提供と確保に努めました。
- ・会員同士の親睦を図るため、親睦事業として日帰りのバス旅行を実施しました。
- ・会員同士の親睦を図るため、趣味の講座として「アクリルたわし講習会」を実施しました。
- ・「桜ヶ丘ボウリングセンター」様の協力を得て、シルバー会員優待サービスを開始しました。

⑤技能系会員の入会の促進と養成

- ・会員募集リーフレットの配布や広報「やまと」への広告掲載等により、技能系会員の入会を促進しました。
- ・専門技術を持つ会員を講師として毛筆筆耕講習会、襖張替講習会を実施し、技能系会員の養成を図りました。

⑥関係機関との連携

- ・市やハローワークとの連携を密にし、臨時的・短期的な就業を希望する高齢者に対して、センターを紹介していただきました。

(2) 就業の拡大

①就業環境の整備・充実

- ・リーフレットの配布や各種イベント等への積極的な参加、広報「やまと」への広告掲載等により、シルバー事業の公益性や内容をPRし、就業先の拡大に努めました。

②地域社会との連携強化

- ・シルバー月間に、大和駅前プロムナードでボランティア活動を実施し、地域との連携を強化しました。

③適正就業の推進

- ・請負・委任契約に基づいた適正就業の徹底を図りました。
- ・請負・委任になじまない就業については、雇用による「労働者派遣事業」として受注しました。
また、「労働者派遣法」に基づき、派遣会員に係る教育訓練として研修への参加を促進するとともに、送迎業務を行っている会員に向けて「シニアドライバー講習会」を実施しました。
- ・臨時的かつ短期的な雇用による就業を希望する高齢者に「職業紹介事業」を実施しました。

④講習会等の開催

- ・会員の技能・技術の向上や新規就業者の養成を図るため、毛筆筆耕講習会、襖張替講習会を実施しました。
- ・安全対策の一環として交通安全講習会を実施しました。
- ・趣味の講座として「アクリルたわし講習会」を実施しました。

⑤安全管理体制の充実

- ・職群班会議で、安全に就業するための対策を検討しました。
- ・会員に対して、市などの健康診断を毎年受診し、自己の健康管理に努めるよう勧奨しました。

⑥会員の事務局業務への活用

- ・事務局にシルバーサポーターを配置し、業務遂行への活用を図りました。

⑦福祉・家事支援サービス等への対応

- ・福祉・家事支援サービス分野に対応できる会員の確保を図るとともに、リーフレットやホームページ等を活用し積極的にPRを行い、事業の拡充を図りました。

⑧新規事業の推進

- ・地域住民の生活をサポートするため、家事支援サービスや空き家管理等、地域ニーズに対応した事業の積極的な推進に努めました。
- ・「包丁研ぎ事業」や「パソコン講座」「スマホ相談」等、会員の能力・知識・経験等を生かし

- た会員が主体となった独自事業を推進しました。
- ・新型コロナウイルスの影響で使い捨てマスクが不足するなか、女性会員による手作りマスクの販売を開始しました。

(3) 組織及び事務局体制

①経営会議

- ・新規会員の入会促進、職員体制の見直し等、事業運営に関する検討を行いました。

②理事会

- ・経営会議での検討結果を踏まえ、センターの発展に向けて課題の改善・解決等について討議を行う等、理事会を中心とした事業運営を進めました。

③事務局体制の充実

- ・社会状況の変化や法令の改正等により、変更が生じた事務・事業や新たに必要となった事務・事業について、効果的・効率的な業務遂行に努めました。